

改訂の序

医学の進歩は著しく、新しい病態が明らかになるとともに、新しい治療薬出現の原動力となっている。ES細胞やiPS細胞などの万能細胞研究の進歩は、将来の重篤な臓器障害の根治的治療法の可能性を期待させる。一般に、科学の進歩はシーズとニーズの緊張感のある循環によってもたらされると考えられているが、最近の生命科学分野の力強い進歩は、人類の健康な長寿への願望という強いニーズによって後押しされながら加速している印象がある。一方、これらの新しい医学知識が実際の臨床に応用されるまでには、生身の人間が対象であることから、安全性や有効性について十分な検証が必要であることは言うまでもない。1つの薬剤が開発から市場に出るまでには10年以上かかると言われ、さらにその薬剤の科学的エビデンスが臨床現場で定着するまでには5～10年を要することがしばしばである（エビデンス-診療ギャップ）。私たちが現在使用している各々の薬剤についても、できるだけすみやかに医学の進歩（シーズ）は社会に還元されるべきであり、このエビデンス-診療ギャップをできるだけ埋める努力が期待される場所である。

薬剤の使用にあたっては、その安全性と有効性を十分に理解しなければいけないことはもちろんであるが、臨床現場ではエビデンスの確立と定着（例えばガイドラインの設定）を必ずしも待つことができない場合がしばしばである。薬剤の背景にある医学的シーズやニーズあるいは作用機序をしっかりと理解することが、薬剤の適切な使用やエビデンス-診療ギャップの実際的な縮小につながると期待している。

本書ではイラストを用いて、薬剤の作用機序をわかりやすく解説することにより、適切な薬剤使用のガイドとなることを期待している。また薬剤への過信はしばしば医療過誤の原因となることから、投薬時の注意や患者さんへの説明のコツ、処方例についてもわかりやすく記載するように心がけた。今回の改訂では、新しく臨床で利用されている薬剤を加えるとともに、日本で今後承認される予定の薬剤についても解説を加えた。本書が高度化する薬物療法において、薬物の作用機序や安全性、副作用を確実に理解する一助となり、患者本位の医療、安心・安全な医療、患者に信頼される医療の実現に貢献できることを願っている。

2009年 9 月

山田信博